Advance 防災・防火通信 暮らしの安心"防災かわらばん"

"火災"が起こったとき「消火器」を正しく使えますか？

火災はかけがえのない生命や財産を奪う大変怖い事故です。もし火災が発生した場合に重要なことは、炎の勢いが小さい内に**「初期消火」**をすることです。
そのためには、お家に**「消火器を備えておく」**、**「日頃から消火器の正しい使い方を確認をしておく」**ことがとても大切です。
今回の Advance 防災かわらばんは、**「初期消火における注意点」**と**「正しい消火器の使い方」**を紹介します。

防災士
防火・防災管理者
稲垣　康弘

「初期消火の注意事項」

119番に火災通報を行った場合、消防車が到着するまでの時間はおよそ10分程度です。
火災は、消防車が到着するまでに、消火器や濡れた毛布やタオルなど身近なものを使っての初期消火が大変重要です。しかし、初期消火の限界時間は火災発生から「2～3分程度」です。
炎が壁や天井に達すると消火器での消火はできないため、**「初期消火の限界を超えた消火はNG」**です。**「部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断し」**、**「煙を吸わないよう口と鼻を覆い低い姿勢で速やかに避難」**してください。

「初期消火の手順」

初期消火は、火元に近づきすぎると炎による火傷や煙による窒息などの危険が伴います。
初期消火の手順は ①「姿勢を低くし徐々に近づき」 ②「火元から3～5メートルの距離を保ち」 ③「出口を背にして」 ④「避難経路の確認と確保を行い」 ⑤「消火器のホースを炎ではなく火元に向けて」消火を行います。

「火災のABC」と「消火器に違いがある」のを知っていますか？

火災には**「普通火災(A)：紙・木材・繊維などが燃える火災」「油火災(B)：食用油・石油などが燃える火災」「電気火災(C)：電気設備・器具などが原因の火災」**があります。また、消火器にも種類があり、一般的な家庭用消火器は「粉末系消火器」で、(A)、(B)、(C) 全ての火災に適応していますが、中には「泡消火器」や「水消火器」といった「油火災」や「電気火災」に不向きな消火器もあります。どの火災に適応しているかを示す「適応シール」が消火器に側面に貼られてますので、消火器を使用する前に必ず確認してから使用してください。
※ 一般的な粉末系消火器の**「放射時間は10～15秒」「放射距離は3～7m」「ガス火災には対応していません」**

「投げ込み式消火器」と「天ぷら油火災用消火器」を知っていますか？

一般的な消火器は、「使い方がわからない」「消火できるか心配」「重くて運べない」など、女性や高齢者、また、体の不自由な方には扱いづらいという問題点があります。そこで、女性や高齢者でも扱いやすい「投げ込み式消火器」「スプレー式消火器」「スティック型消火器」をご紹介します。

【投げ込み式消火器】　【スティック型消火器】　【スプレー式消火器】　【投入型消火剤】